TOYOTOMI

木質バイオマス燃料 ペレットストーブ

型式 PE-8（ピーイー）

密閉式強制給排気形ペレットストーブ

取扱説明書
〈保証書付き〉

このたびは本機をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。

■ご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をお読みいただき、正しく使用してください。この「取扱説明書」は、大切に保管しておいてください。

■地域によっては、条例により設置できない場合もあります。当社までご相談ください。

■このストーブは「工事説明書」の弊社標準据付け例などに基づいて、給排気筒を必ず取り付けてから使用してください。給排気筒の据付け･移設工事は必ず販売店、または弊社指定店などに依頼してください。給排気筒を取り付けずに使用すると一酸化炭素中毒に至るなど重大な危険となるおそれがあります。

目次

⚠ 警　告　給排気筒を必ず点検してください。

F08−2

5272077111

1 安全のために必ずお守りください

●お使いになる人や他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しく使用するために、必ずお守りいただくことを説明しています。
●ここに示した表示は、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

表示	内容
⚠警告(WARNING)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意(CAUTION)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。

絵表示	内容
	この絵表示は、「禁止」されている内容です。
	この絵表示は、「注意」していただく内容です。
	この絵表示は、必ずしていただく「指示」内容です。

●説明文中の**「お願い」**事項は、本機を誤りなく正しくお使いいただくための内容が記載されています。

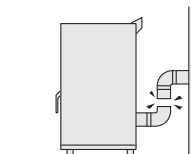
⚠警告(WARNING)

★使用燃料は木質ペレット以外厳禁

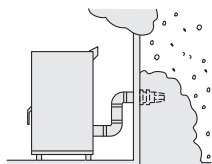
燃料タンク内には木質ペレット以外の固形燃料やガソリンなどの液体燃料を絶対に入れないでください。火災の原因になります。

禁止

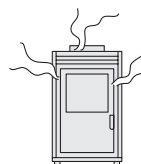
★給排気筒外れ危険

給排気筒が正しく接続されているか必ず点検してください。外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

禁止

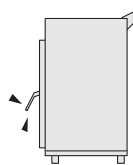
★給排気筒トップ閉そく危険

積雪の多い地方では、給排気筒トップが雪でふさがれないようにしてください。
排ガスを再度吸込んで異常燃焼を起こすことがあります。

禁止

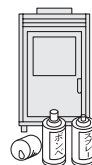
★かん合部の外れ危険

灰トレイや燃料タンク扉などが確実に閉まっているか確認してください。
外れ・すき間があると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

禁止

★燃焼室扉開放厳禁

燃焼室扉が確実に閉められていることを確認してください。
燃焼中、外れ・すき間があると排ガスや炎が室内に漏れて、火災が発生するおそれがあります。

禁止

★スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、ストーブに近付けたり、周囲に放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。

禁止

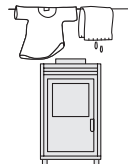
⚠警告(WARNING)

★温風吹出口をふさがない

衣類、紙などで温風吹出口をふさがないでください。
異常燃焼や火災の原因になります。

禁止

★衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
落下した衣類に火がつき、火災の原因になります。

禁止

★ライター・マッチ等で着火しない

やけど・けがの原因になります。

注意

★着火剤は使用しない

やけど・けが・火災の原因になります。

注意

★本体や内部には水をかけない

ショート・故障・感電・さびの原因になります。

禁止

★災害・停電時は、電源を切り窓を開けて換気をする

このストーブは電気式です。停電時は排気ファンが止まり、煙が出ることがあります。
このような時は、あわてずに窓を開けて換気してください。

指示

★定期点検の実施

定期的(1シーズンに１回程度)に点検・整備を受けてください。
点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。
点検・整備はお買い求めの販売店や資格者のいる店に依頼してください。

指示

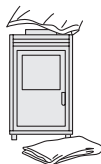
★ご自身での据付け・移設工事の厳禁

お客さまご自身による工事は危険です。
据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。
(ストーブを移設させる場合も同じです。)

禁止

⚠注意(CAUTION)

★カーテン、可燃物近接禁止

カーテンや燃えやすいもののそばなどでは、使用しないでください。
ストーブ周辺に可燃物を置かないでください。
火災の原因になります。

禁止

★やかんのせ禁止

やかんなどをのせないでください。
振動や接触によって、やかんの落下や、やかんの熱湯がこぼれ、やけどのおそれがあります。

禁止

★燃料供給時消火

燃料供給は、必ず消火してからおこなってください。
火災ややけどのおそれがあります。

消火

⚠注意(CAUTION)

★指や異物を入れない

ストーブの内部や燃焼室内及び上面、燃料タンク内には紙、布、プラスチック、スプーンなどの異物を入れないでください。
火災や感電、予想しない事故の原因になります。

★異常・故障時使用禁止

におい、すすの発生、炎の色など異常を感じたときは運転スイッチを押して「切」にしてください。
異常燃焼のおそれがあります。

- 点火不良で、何回も点火操作をした後、燃焼バーナー内に燃料が溜まり、点火しにくいことがあります。一度溜まった燃料を取り出して処分してから再点火してください。
- 万一ストーブから火が出たり、床などに火がついたときは、あわてずに消火器で消火してください。

★高温部に注意

燃焼中や消火直後は、燃焼室扉や天板などの高温部に手や顔などを近づけないでください。
やけどのおそれがあります。

★高温部接触禁止

温風吹出口、給排気筒トップなどは高温になります。
手などを触れないでください。
やけどのおそれがあります。

★回転体に注意

運転中の燃料タンク内などに手などを入れないでください。
回転物にはさまれ、けがのおそれがあり大変危険です。

★燃料たまり点火の禁止

バーナー内に燃料をためた状態で点火させないでください。
不完全燃焼や故障の原因になります。

★推奨外燃料の使用禁止

木質ペレット以外の固形燃料などは絶対に使用しないでください。故障や燃焼不良の原因になります。
推奨以外の燃料の使用はストーブに支障をきたす場合があります。

★燃料保管方法の注意

雨風の当たらない屋内で保管してください。
湿った燃料を使用すると、不完全燃焼や故障の原因となります。

★保管時にしていただくこと

長期間使用しないとき、または保管するときは、必ず燃料タンク内から燃料を抜き電源プラグをコンセントから抜いてください。

★分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理は危険です。

★長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や予想しない事故の原因となります。

★腰をかけたり物をのせない

ストーブの上にのったり、腰をかけたりしないでください。ストーブの故障ややけどのおそれがあります。

★お子様やお年寄りのご使用に注意

お子様やお年寄り、体の不自由な方がお使いになる場合は、やけどや、部屋の換気などについて、周囲の人が充分に注意してください。

★電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこり(及び金属物)を除去してください。
ほこりや異物がたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。

⚠注意(CAUTION)

★電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、傷付けたり、束ねたり、物をのせたり加工しないでください。
また、電源プラグを抜くときは、電源コードを持って引き抜かないでください。
電源コードが破損し、火災や感電の原因となります。

★廃棄するとき

本機を廃棄処分するときは、必ず燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
(20ページ参照)
燃料が入ったまま廃棄するとリサイクルの際思わぬ事故が発生するおそれがあります。

★温風に直接あたらない

温風や輻射熱に直接長時間あたらないでください。
低温やけどや、脱水症状になるおそれがあります。
温風を直接吸い込まないでください。
気分が悪くなることがあります。

★可燃性ガス使用禁止

ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの(ガソリン、ベンジン、シンナー)、スプレーを使用しないでください。
火災や故障の原因になります。

★電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
また、傷んだ電源プラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。
火災の原因になります。
ぬれた手での抜き差しはしないでください。
感電の原因になります。

★改造使用の禁止

改造して使用しないでください。
火災や、排ガスが室内に漏れる原因となり、危険です。

★給排気筒トップ付近の可燃物近接禁止

給排気筒トップの近くに、灯油や可燃物など引火のおそれのあるものを置かないでください。
火災のおそれがあります。

★高地(標高1500m以上)では使用禁止

高地(標高1500m以上)では酸素濃度が薄いので不完全燃焼しますので使用しないでください。
1000〜1500mで使用する場合は再調整が必要ですので販売店までお問い合わせください。

★お手入れの際は、ストーブ及び給排気筒が冷えてからおこなってください。

やけど、けがの原因になります。

★ストーブの表面のお手入れには研磨剤の入ったクレンザーなどは使わないでください。

塗装のはがれ、サビの原因になります。

1 安全のために必ずお守りください

⚠注意(CAUTION)

★可燃物(木壁、合板、ふすまなど)との距離を離す

●据付けや移設工事は火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準を守っておこなってください。
●据付けや移設工事は、販売店または弊社指定店に依頼してください。
●ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は工事説明書のようにしてください。
●上方の棚などからの落下物がないようにしてください。
●特に、カーテンなどが本体にふれないようにしてください。
●家具等からは充分な距離をとってください。
熱で変形や変色、自然発火することがあります。

2 使用する場所

★効果的に使用するために

●冷たい外気に接する窓際や壁際に設置すると、対流効果によってお部屋の温度のムラが少なくなり、効果的な暖房ができます。
●ストーブ前方に温風の循環を妨げるものがない場所に設置してください。

3 各部のなまえ

[正面外観図]
[背面外観図]
操作表示部
天板
燃料タンク扉
温風吹出口
エラー表示
確認窓
燃焼窓
燃焼室扉ハンドル
置台
室内空気
監視装置
電源コード
給排気口

[内部構造図]
[燃料タンク内]
燃料タンク扉
燃料タンク
燃焼室内
燃料供給口
燃焼バーナー
燃焼バーナー受け
灰トレイ
燃料タンク

操作表示部

タイマー時間表示(緑)
点灯：タイマー運転待機中
(タイマー運転開始までの時間)
点滅：タイマー運転設定中
警報ランプ(赤)
安全装置が作動したときにランプが点灯します。
風量設定表示(緑)
弱風
中風
強風
8
9
10
5
6
7
min
max
on
運転ランプ(緑)
点灯：運転中
点滅：初期運転中
(点火動作〜強制燃焼)
運転スイッチ
運転の入・切をおこないます。
火力調節つまみ
お好みに応じてmin(最小)〜max(最大)の間で火力を調節できます。
送風ファン風量切替ボタン
運転中にこのボタンを押すとお好みの風量に切替できます。
タイマーボタン
タイマー運転の設定をおこないます。
「5 使い方」の タイマー運転のしかた 参照

4 使用前の準備

木質ペレット燃料について

◉木質ペレットは、推奨燃料を必ず使用してください。

[推奨燃料] **ホワイトペレット**

⚠警告

★使用燃料は木質ペレット以外厳禁

燃料タンク内には木質ペレット以外の固形燃料やガソリンなどの液体燃料を絶対に入れないでください。
火災の原因になります。

- ●燃料は、ストーブ側面に記載されている推奨燃料〔ホワイトペレット〕を必ず使用してください。
- ●推奨以外の木質ペレットの使用はストーブに支障をきたす場合があります。
- ●木質ペレット以外の固形燃料などは絶対に使用しないでください。故障や燃焼不良の原因になります。
- ●ペレットが粒子状に崩れた粉の多いもの、湿気を帯びたものは、使用しないでください。
  燃焼不良の原因になります。
- ●燃料タンクを空にしないように注意してください。

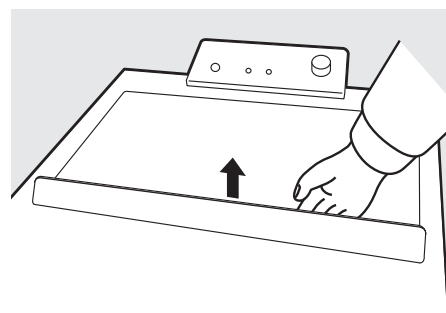
供給のしかた

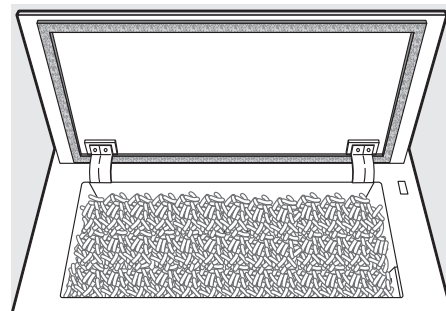
⚠注意

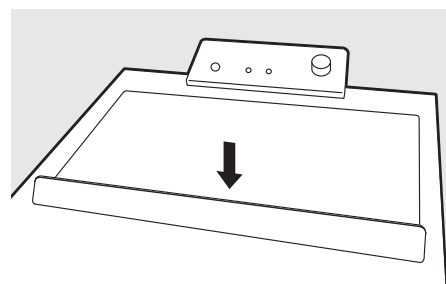
★燃料供給時消火

燃料供給は、必ず消火してからおこなってください。
火災ややけどのおそれがあります。

1 燃料タンク扉を開ける。

- ●燃料タンク扉を上に持ち上げて開けます。

2 燃料タンク内に燃料を投入する。

- ●燃料タンク上面1㎝付近まで投入する。
- ●燃料は燃料タンク内に均一になるようにならしながら投入してください。

3 燃料タンク扉を確実に閉める。

- ●燃料タンク扉が確実に閉まっているか確認してください。
  異常燃焼を起こすことがあり、危険です。
- ●燃料タンク扉が開いたまま運転すると、約1分後に警報ランプが点灯し運転が停止します。

点火前の準備と確認

お願い

●燃料タンクは空にしないでください。
　タンクが空になるまで燃焼させるとすすの発生や燃焼不良の原因になります。
●設置後初めての使用時、燃料を切らした時などは「燃料供給口」から燃料がでてくることを確認して
　一旦「運転スイッチ」を「切」にしてから再度「入」にしてください。

1　ストーブ周辺を確認する。

●ストーブ周辺及び給排気筒の周囲に引火物や可燃物を置かないでください。
　火災や予想しない事故の原因になります。

2　給排気筒が接続されているか確認する。

●給排気筒が正しく接続されているか確認してください。外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、大変危険です。

3　燃料が入っているか確認する。

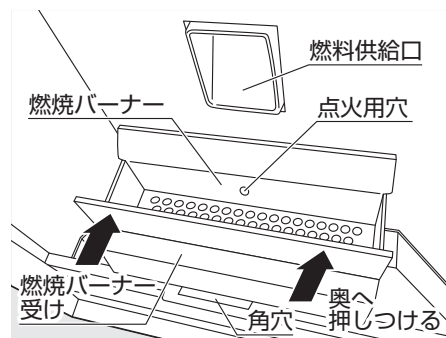
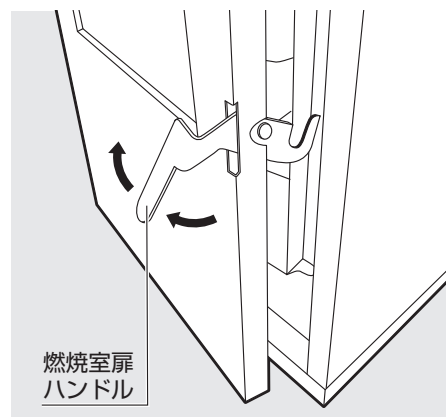
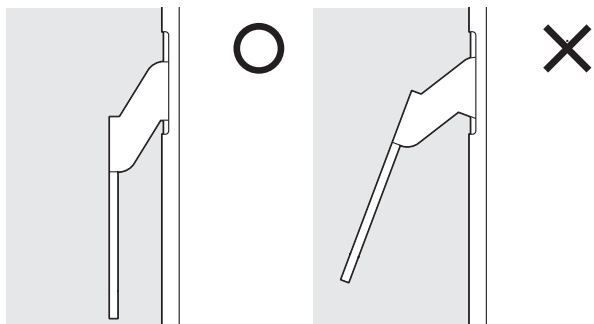
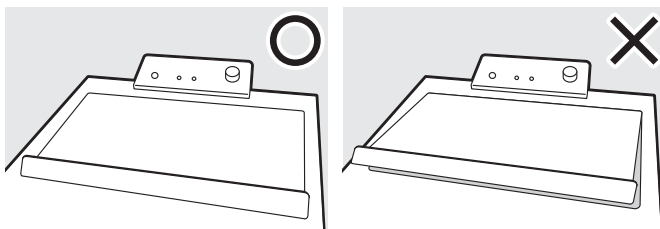
●燃料タンク内の燃料が均一になるようにならしてください。
●燃料タンク内には木質ペレット以外の固形燃料やガソリンなどの液体燃料を絶対に入れないでください。
●木質ペレット以外の固形燃料は絶対に使用しないでください。故障や燃焼不良の原因になります。
●推奨以外の燃料の使用はストーブに支障をきたす場合があります。

4　燃焼室扉ハンドルを手前側に引き上げて、燃焼室扉を開きます。

5　燃焼室内を確認する。

●燃焼室内に異物がないか、また極度の汚れや灰がないかを確認してください。
●燃焼バーナーの穴が詰まっていないかを確認し、燃焼バーナーを燃焼バーナー受けに正しく取り付けてください。
●中央に点火用穴があいている側が奥側になります。
●燃焼バーナー受けの下部の突起が角穴に確実に、はまっているか確認してください。また燃焼バーナーおよび燃焼バーナー受けは奥に押し付けてください。

6　燃焼室扉、燃料タンク扉が閉まっているか確認する。

●燃焼室扉、燃料タンク扉などを確実に閉めてください。
　外れ・すき間があると**点火不良、燃焼不良を起こしたり**、運転中に排ガスや炎が室内に漏れて、火災が発生するおそれがあります。

[燃焼室扉] 確実にロックされていること

[燃料タンク扉] 確実に扉が閉まっていること。

※燃料タンク扉が開いたまま運転すると警報ランプが点灯し運転停止します。

7　電源プラグをコンセント（家庭用AC100V）に確実に差し込む。

●電源は必ず100V 12A以上の専用コンセントをお使いください。

お願い

★床の上で長時間使用すると、変色したり、そり返ることがありますので、別売の炉台（フロアプレート）などを敷いてください。

5 使いかた

点火のしかた

警告

★ライター・マッチ等で着火しない

やけど・けがの原因になります。

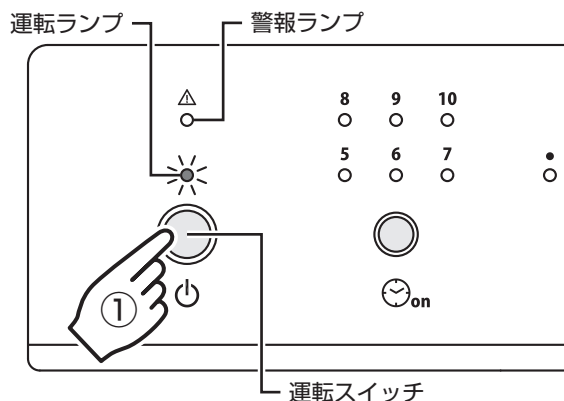
★着火剤は使用しない

やけど・けが・火災の原因になります。

⚠注意

点火不良で、何回も点火操作をした後に点火すると、燃焼バーナー内にたまった燃料が過剰燃焼して炎が大きくなり、すすが出て異常燃焼します。また燃焼バーナー外に燃料がはみ出して灰トレイ内へ燃焼殻が落ちたりするので危険です。
このようなときは、あわてずに、**「運転スイッチ」**を押して**「切」**にし、たまった燃料が燃えつきるまで待ってください。
電源プラグをコンセントから抜かないでください。

① 「運転スイッチ」を押して「入」にする。

●ピッという音がして**「運転ランプ」**が点滅します。

お願い

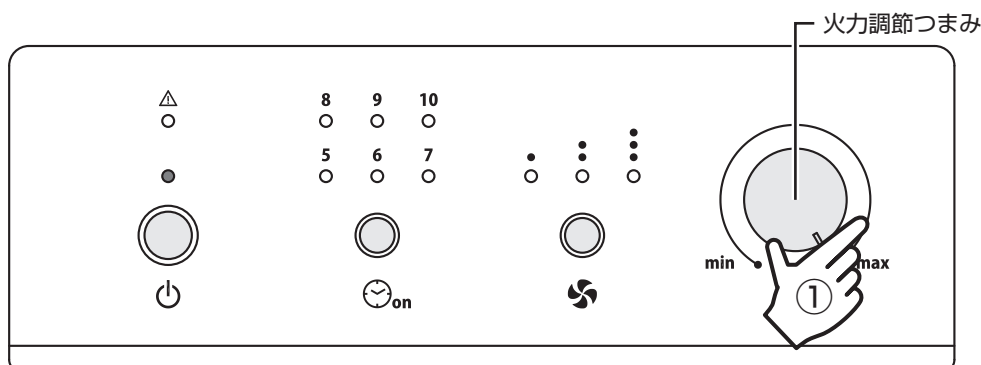
●初めて運転するときや、燃料タンクを空にして燃料補給した後などは、燃料経路内に燃料が満たされてないことにより、点火できないことがあります。
●燃料供給口から燃料が出てくることを確認してください。燃料が出てきたら、**一旦「運転スイッチ」を押して「切」にし、再び「運転スイッチ」を「入」にしてください。**
●「運転スイッチ」を「入」にしたあと、**10〜12分経過後に「警報ランプ」が点灯した場合、「運転スイッチ」を押して「切」にし、再び「運転スイッチ」を「入」にしてください。**

② 3～8分後に自動的に点火します。

③ 運転開始後10〜12分経過すると初期運転が終了して本燃焼に入り、「運転ランプ」が点滅から点灯に切り替わります。

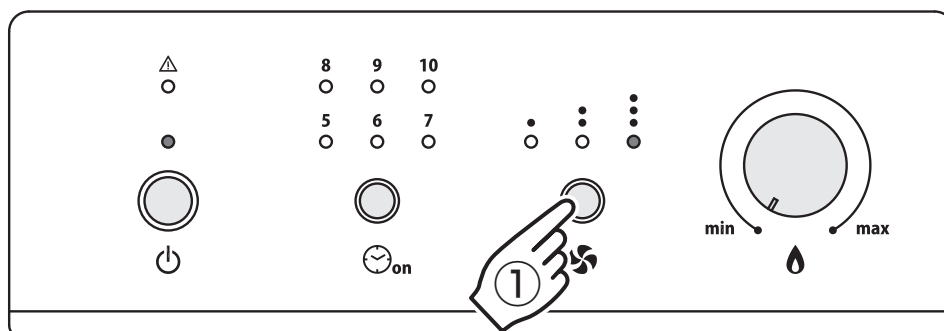
お願い

●点火時には室外に設置している給排気筒トップより煙が出ることがありますが異常ではありません。しばらくすると煙は出なくなります。
●運転開始後10〜12分間は初期運転となります。初期運転中は火力調節ができません。また初期運転中は炎が不安定になることがありますが異常ではありません。
●**ご購入されて初めて使用されるときに、製品の塗料やパッキンなどの焼けるようなにおいがする場合があります。**
このような場合は、お部屋の窓を少し開け、半日から１日程度、火力「max」で運転をしてください。
●**運転中はときどき燃料タンク内の燃料をならしてください。但し、運転中に燃料タンク扉を開けたままにすると約１分後に警報ランプが点灯して運転が停止します。**

火力調節（初期運転終了後にしかできません）

①「火力調節つまみ」をまわす。

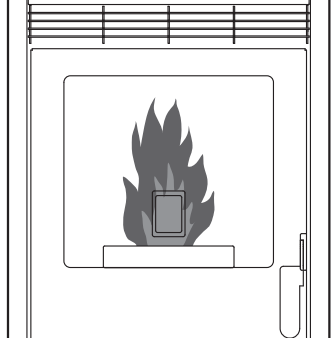
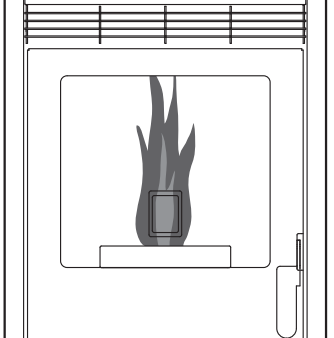
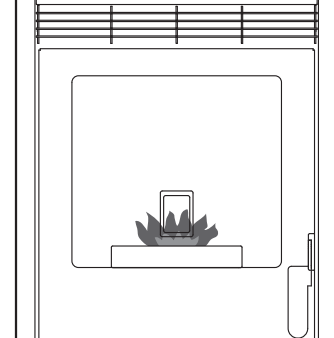
「火力調節つまみ」をmin（最小）～max（最大）までお好みに応じて調節してください。

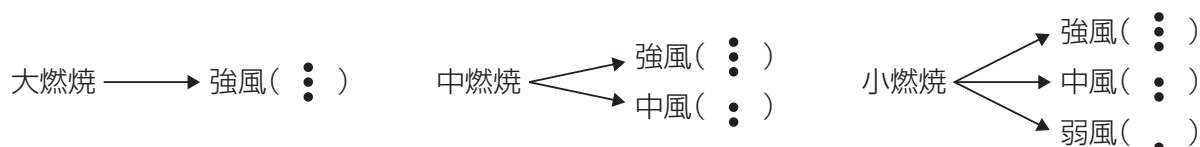
★初期運転中（運転スイッチを押してから10～12分間）は火力調節ができません。

送風ファン風量切替のしかた

① 運転中に「送風ファン風量切替ボタン」を押して送風ファンの風量を切替します。

★初期運転中は点火して温度が上昇するまでしばらくの間は送風ファンは動きません。

●購入後初めてお使いになるときは強風（⋮）状態で運転開始します。

●ボタンを押す毎に

を繰り返します。

●燃焼量によっては、設定できない風量があります。
設定可能な風量の目安は以下の通りです。

炎の状態（ここに表示した状態は最大燃焼の状態です）

	正　常	異　常　使用禁止	
炎の図		～空気不足燃焼～	～空気過剰燃焼～
状態	●炎の色は、明るい黄色かオレンジ炎。 ●燃焼バーナー内の燃焼殻が適度に残っている。	●炎の先端がオレンジ炎でゆらゆら燃えている。 ●燃焼バーナー内の燃焼殻が溜まり気味である。 ●燃焼窓のガラスにススが付着する。	●明るい炎が小さくて、動きが活発である。または炎がバーナーから出ない程小さくなる。 ●燃焼バーナー内の燃焼殻がほとんど残らない。
原因	――	●燃焼用空気不足。 ●燃料供給量過多。 ●推奨燃料以外で燃焼した為。 ●排気経路に灰等が溜まった為。	●燃焼用空気過多。 ●燃料供給量減少。 ●推奨燃料以外で燃焼した為。
処置	――	●燃焼バーナー内の穴の詰まりを掃除する。 ●排気経路を掃除する。 ●販売店にご相談ください。	●販売店にご相談ください。

●初期運転終了後に、正常に燃焼しているかどうか、燃焼窓から見て必ず確認してください。

★燃焼中、炎がかたよったり火の粉が混ざったり、上下変動することがありますが異常ではありません。
★燃焼中、「ガリガリ」と音をたてる場合があります。

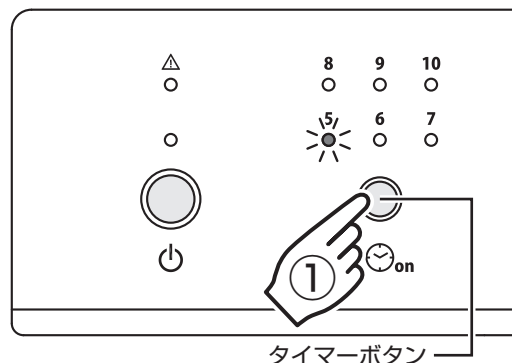
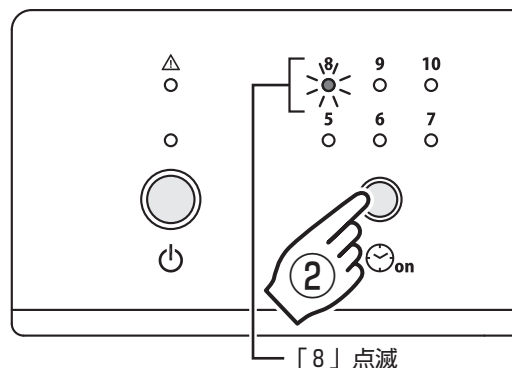
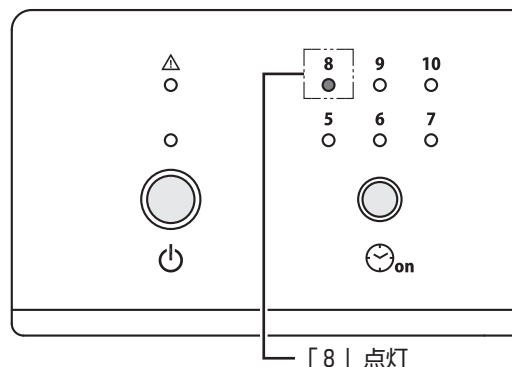
タイマー運転のしかた（タイマーを使用して暖房を始めたいとき）

運転中、停止中、いずれの場合も設定可能ですが、運転中に「タイマーボタン」を押すと消火してタイマー設定操作に入ります。

設定のしかた

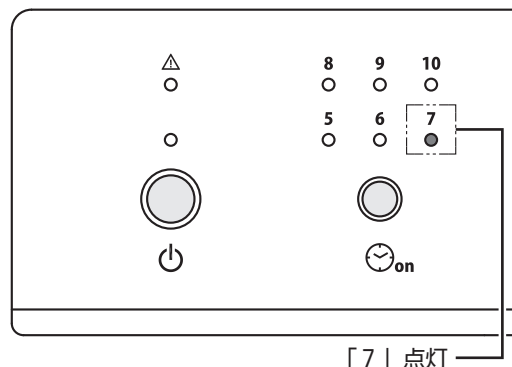
例 8時間後に運転開始するように設定したい場合

①「タイマーボタン」を押す。

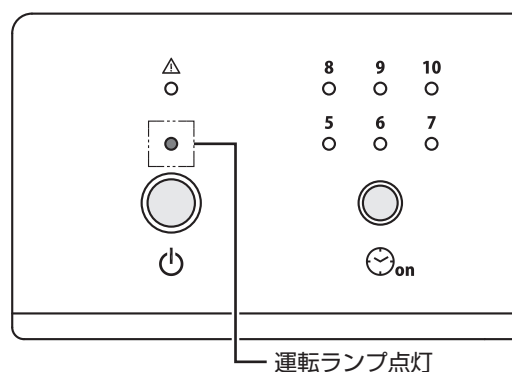
「タイマーランプ」が点滅します。
※前回設定したタイマー時間のランプが点滅します。初めて設定するときは「5（時間）」のランプが点滅します。

② 「タイマーランプ」が点滅している間に「タイマーボタン」を押して「8（時間）」の位置に合わせます。タイマー設定中に「タイマーボタン」を押すと 5→6→7→8→9→10→5→6…の順に切り替わります。

③ （運転状態からタイマー設定操作した場合）
そのまま操作せずに約10秒経過すると「タイマーランプ」が点滅から点灯にかわり、タイマー運転のセットが完了します。

④ （運転停止状態からタイマー設定操作した場合）
タイマー時間設定中（「タイマーランプ」点滅中）に運転スイッチを押すと「タイマーランプ」が点灯にかわりタイマー運転のセットが完了します。

●設定できなかった場合（タイマーランプ消灯）は、もう一度**「タイマーボタン」**を押してやり直してください。

●タイマー運転待機中の表示は、運転開始までの残り時間を表示し、時間経過とともに変化します。

（例）タイマー 8時間設定後に 1時間経過時の表示内容（7時間後に運転開始）

⑤ **設定時間が経過すると「タイマーランプ」が消灯し、「運転ランプ」が点灯して運転開始します。**

お願い

●タイマー運転は、一度タイマー運転時間を設定すれば、変更しない限り、運転中に**「タイマーボタン」**を押すだけで同一時間で設定が完了します。
●タイマー運転設定終了後にタイマー運転時間を変更する場合は、**「タイマーボタン」**を押して時間を変更し、そのまま10秒経過すると**「タイマーランプ」**が点滅から点灯にかわり、変更受付が完了します。

解除のしかた

タイマー運転の設定をした後、タイマー運転開始前に通常運転をおこないたい場合。

❶ **「運転スイッチ」を押して「切」にする。**
→[タイマー運転の解除]

❷ **「運転スイッチ」を再度押して「入」にする。**
→[通常運転開始]

タイマー運転の注意事項

お願い

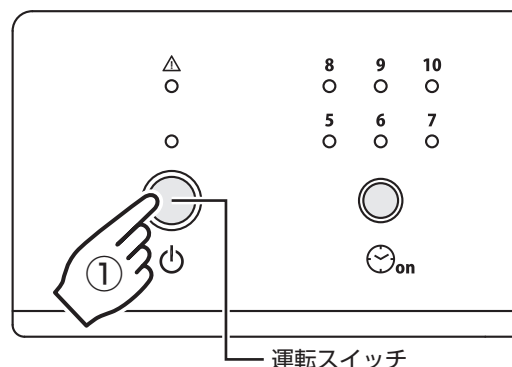
●通常運転中に**「タイマーボタン」**を押すと、消火して**「タイマー運転」**の状態になり、タイマー開始時間に自動的に点火します。
●タイマー運転操作後に停電があったときや、ストーブを揺らして対震自動消火装置が作動したとき、電源プラグを抜いたときは点火しません。

消火のしかた

① **「運転スイッチ」を押して「切」にする。**

●消火操作をすると、ランプがすべて消灯し、燃料供給が止まります。

② **消火を確認する。**

●消火操作をしたときは、すべてのランプ消灯とバーナー内の火が消えることを確認してください。

送風用ファンが停止した後約30分は燃焼用送風機が回転し続けます。その後自動的に停止します。
すべての運転が完全に停止するまでに1時間以上かかることがあります。
燃焼用送風機が止まるまで、電源プラグを抜かないでください。

お願い

★消火は必ず**「運転スイッチ」**を使用してください。
電源プラグをコンセントから抜き取って消火することは、絶対にやめてください。
（機器が異常過熱したり、事故の原因になります。）
★点火した後すぐ消火することはやめてください。燃焼バーナー内に燃料があふれたり着火しにくくなったりします。15分間位は燃焼してから消火してください。

消火後再点火するときの注意

★着火前に**「運転スイッチ」**を押して**「切」**にし、再度**「運転スイッチ」**を押して**「入」**にした場合、燃焼バーナー内に燃料が多く溜まり、燃料が燃焼バーナー外にあふれ出ることがあります。
一度溜まった燃料を外部に出してから再点火してください。

灰処理のしかた

◉必ず消火後、ストーブが完全に冷えた状態でおこなってください。

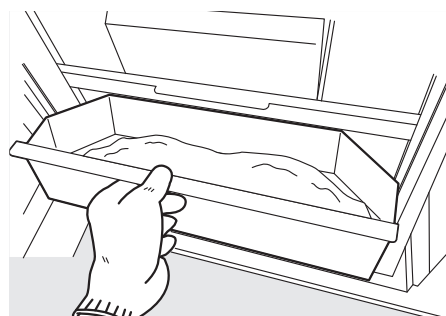
◉灰は木灰として、菜園などに有効に活用できます。

廃棄物として廃棄する場合、各市町村によって回収方法が異なりますので、各市町村にご確認ください。

1 燃焼室扉を開ける。

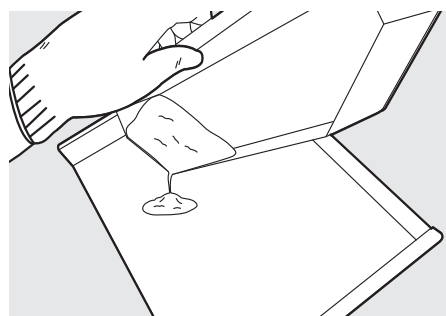
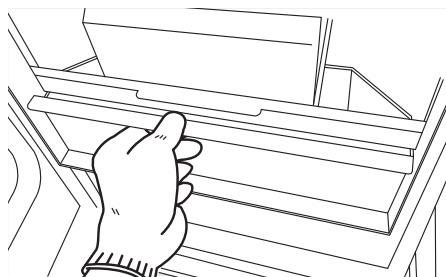
燃焼室扉を右図のようにして開ける。

2 灰トレイを引き出す。

灰トレイを手前側に、引き出してください。

お願い

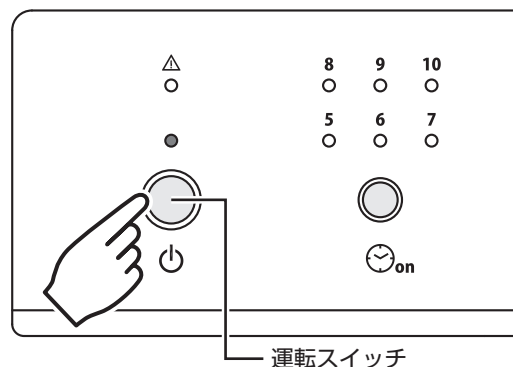
灰トレイは消火後もしばらくの間は高温ですので、灰処理は灰トレイが完全に冷えたことを確認してからおこなってください。

3 灰トレイの灰を金属容器などに入れてから除去する。

容器に入れた灰は、完全に冷えた状態で処分してください。

4 灰トレイを元に戻す。

5 燃焼室扉を閉める。

6 安全装置

★安全装置が作動するのは何らかの異常があるときですから、下記の処置をしても正常にならないときは、販売店にご相談ください。

★再点火操作とは、一度**「運転スイッチ」**を押して**「切」**にしてから、再び押して**「入」**にすることをいいます。

安全装置名	はたらき	処置
点火安全装置	●運転スイッチを「入」にして10～12分経過しても着火しない場合、燃料供給と点火ヒーターを停止させる安全装置です。	●何回も再点火操作をしたときは、燃焼バーナーに燃料がたまっています。たまった燃料を取り出してから再点火操作をしてください。 ●燃料タンクに充分燃料があるか確認してください。 ●燃焼バーナーの穴が目詰まりしていないか、排気経路に灰が詰まっていないかを確認してください。
燃焼制御装置	●燃焼中に炎が消えたとき、自動的に運転を停止させる安全装置です。	
停電安全装置	●運転中に停電や電源プラグを抜くなどしたときは、自動的に運転を停止します。 ●再び通電されても運転しません。 ●タイマー運転中に停電があった場合、タイマー運転は解除されます。	●再通電後に再点火操作をしてください。
過熱防止装置	●異常燃焼などの原因でストーブが異常過熱したとき、火災などの危険を防ぐために燃焼を停止します。	●異常過熱の原因を除いてから、再点火操作をしてください。（販売店にご相談ください）
逆圧安全装置	●排気側（排気筒・給排気筒トップ）に、逆風による異常な逆圧がかかった場合、燃焼を停止します。	●風がおさまってから再運転してください。 ●燃焼室の上部が灰等で閉そくされていないかどうか、確認してください。 ●室外の給排気筒トップが閉そくされていないか確認してください。（販売店にご相談ください）
対震自動消火装置	●運転中にストーブ本体が地震（震度約５以上）や強い震動、衝撃を受けた場合、火災などの危険を防ぐために自動的に運転を停止します。 ●タイマー運転中に対震自動消火装置が作動した場合、タイマー運転は解除されます。	●地震によって作動した場合、周囲の可燃物、機器の損傷、給排気筒の外れなど異常がないことを確認してから再点火してください。
室内空気監視装置	●運転中にストーブ本体付近の室内空気に汚れが発生したとき、自動的に運転を停止します。	●たばこ等の煙が充満すると誤作動する事がありますので部屋の換気をしてください。 ●機器の損傷、給排気筒の外れなど異常のないことを確認してから再点火ください。

7 点検・手入れ

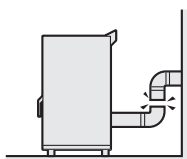
日常の点検・手入れ

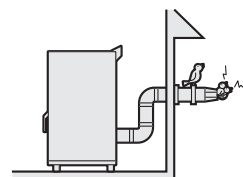
お願い

★点検・手入れをするときは、必ずストーブを消火し、ストーブの温度が充分下がってから電源プラグをコンセントから抜いて、おこなってください。やけどや感電をするおそれがあります。
★部品に触るときや、内部を掃除するときは、手をけがしないように、手袋をはめておこなってください。
★ストーブをベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色します。
★電装品の取りはずし、分解はおこなわないでください。

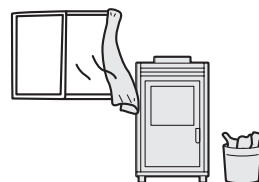
シーズンはじめ

給排気筒

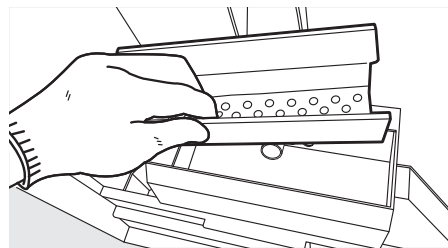
●給排気筒の接続箇所が外れていないか確認してください。

給排気筒トップ

●室外の給排気筒トップが鳥の巣やビニール袋などでふさがれていないか確認してください。

使用のたびに

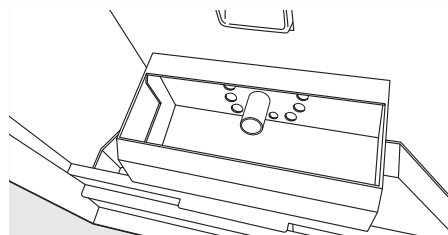
周囲の可燃物

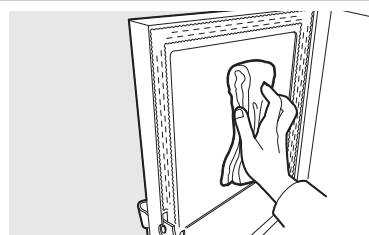
●ストーブの周囲は、常に整理、清掃し、燃えやすいものを置かないようにしてください。
●ストーブはいつも清潔に掃除してください。
汚れたままのご使用は危険のもとですし、ストーブのいたみを早めます。
●給排気筒・給排気筒トップの周囲には、危険物や障害物がないようにしてください。

7 点検・手入れ

燃焼室の燃焼バーナーに溜まった燃焼殻、灰の除去

●使用時間や燃料の質・状態によって灰量は異なります。
燃焼室内の燃焼バーナーに灰が溜まっていないか確認してください。
掃除用ホウキなどで燃焼バーナー内及び燃焼バーナーの穴を掃除してください。
掃除後は中央の点火用穴が奥側になるよう、正しく取り付けてください。
★燃焼バーナーに灰が詰まった状態で燃焼をおこなうと着火しにくくなります。
また、燃焼に必要な空気が充分に取り入れることができなくなり、不完全燃焼の原因になります。

1箇月に1回以上

燃焼バーナー受けに溜まった灰を除去

●燃焼バーナーを取り出してから、燃焼バーナー受けを取り出してください。
燃焼バーナー受けに溜まった灰を掃除用ホウキなどで灰トレイに落としてください。
掃除後は燃焼バーナー受け下部の突起を角穴に挿入し、燃焼バーナー受けを奥に押し付けてください。

燃焼窓のガラスのクリーニング

●ガラスはススや灰などが付着して汚れてきます。
固めにしぼったぬれ雑巾などでススを拭きとってください。

1シーズンに1～2回以上

電源プラグ、コンセント

●電源プラグ、コンセントにほこりや汚れが溜まると火災の原因になることがあります。電源プラグをコンセントから抜いて、付着したほこりや汚れを取り除いてください。

給気経路・排気経路の清掃

●ほこりやススなどの汚れが給気経路・排気経路に蓄積すると、燃焼に悪影響する場合があります。
販売店にご相談して定期的に掃除するようにしてください。

8 定期点検

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。機器の寿命をより長く、より良い燃焼で快適に安全にお使いいただくために、1シーズンに1回程度、シーズン終了後などに、お買い求めの販売店、または当社指定店などに点検を依頼してください。

愛情点検

●長年ご使用のペレットストーブの点検を!

●ペレットストーブの補修用性能部品の保有期間は、製造打切り後7年です。

ご使用の際このようなことはありませんか	●炎が異常に黄色い。 ●予熱時間が異常に長い。 ●運転中異常な音がする。 ●その他の異常・故障がある。		ご使用中止	故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検・修理をご依頼ください。

9 故障・異常の見分けかたと処置のしかた

修理を依頼される前に調べていただきたいと

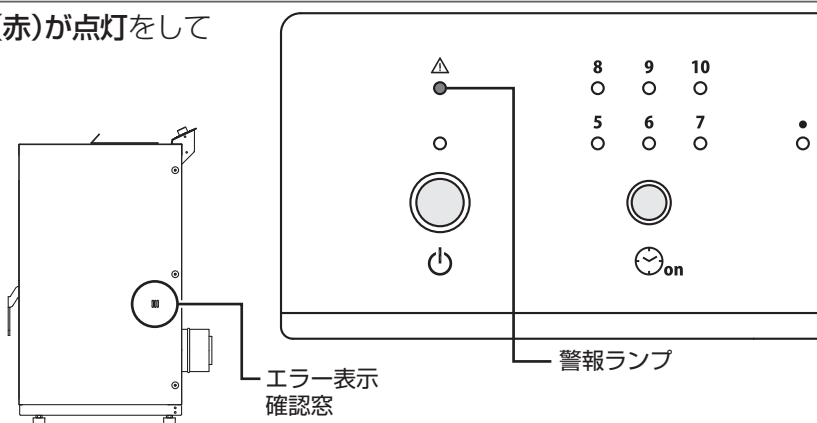
下表のような状態は故障ではありません。

状　態	説　明
購入後初めて使用するとき、または燃料切れした後の運転時に点火しなかった。	購入後初めてご使用になる場合や燃料切れした後に運転する場合は燃焼経路に燃料が満たされないため点火しないことがあります。もう一度運転スイッチを入れて再運転をおこなってください。
購入後初めて使用するとき、けむりや臭いが出る。	購入後初めてご使用になる場合、製品の塗料やパッキンの焼けるようなにおいがする場合があります。このような場合は、お部屋の窓を少し開け、半日から一日程度、火力「強」で運転してください。
運転中ガリガリという音がする。	ペレット燃料を送る際にガリガリという音がする場合がありますが、異常ではありません。
点火時に給排気筒トップ先端から煙が出る。	点火時に短時間煙が出ることがありますが異常ではありません。
窓ガラスが曇る。	ご使用時に窓ガラスが少し曇ることがありますが異常ではありません。「7 **点検・手入れ**」の項を参照し窓ガラスのクリーニングをおこなってください。
運転スイッチを押してもどのランプも点灯しない。	電源プラグがコンセントに差し込まれていますか。
燃料が燃焼バーナーに落ちてこない。	• 燃料は入っていますか。 →入っていない場合は補給してください。また、燃料タンク内の燃料が均一になるようにならしてください。
	• 燃料タンク扉が開いたままになっていませんか。 →燃料タンク扉が開いていると燃料供給モータが作動しません。
点火しない(ペレットに点火しない)。	• 燃焼バーナーが正しくセットされていない。 (バーナーおよびバーナー受けを奥へ押し付けてください。)
	• 燃料が湿っていませんか？
	• 燃焼バーナー内に灰が溜まっていると点火しづらくなります。
火力が切り替わらない。	運転開始時の初期運転中(運転開始後10～12分)は、点火動作および強制燃焼するため、火力の調節はできません。
点火してもすぐ温風が出ない。	運転開始時の初期運転中は、点火して温度が上昇するまでのしばらくの間、送風ファンは停止したまま待機し、温度が上昇した段階で始動します。
送風ファン風量切替ボタンを押しても風量ランプが切り替わらない。	設定火力によって「弱風」や「中風」設定できない場合があります。詳しくは「5 **使いかた**」の **送風ファンの風量切替のしかた** を参照してください。
途中消火した。	• 燃料は入っていますか。 →入っていない場合は補給してください。また、燃料タンク内の燃料が均一になるようにならしてください。
	燃料タンク扉を開けたままにしていませんでしたか。燃料タンク扉が開いていると燃料が供給されず途中消火する場合があります。

異常のお知らせ

安全装置が作動すると、**操作部の警報ランプ(赤)が点灯**をして自動停止します。

警報ランプが点灯した際には機器内部のコントローラーにエラー表示が点滅表示します。
機器右側面にあるエラー表示確認窓からエラー内容を確認し、処置をしてください。

繰り返し表示するときや再運転しないときは、お買い求めの販売店へご連絡ください。

9 故障・異常の見分けかたと処置のしかた

表示点滅	表示内容	処置方法
0	過熱防止装置作動 （機器内温度上昇）	ストーブの周囲を囲ったり、温風吹出口に障害物がありませんか。
1	燃料タンクスイッチ作動 （燃料タンク扉が開いたままです）	燃料タンク扉が開いたままになっていませんか。 燃料タンク扉を閉めて再運転してください。
3	燃料供給モータ回転異常	燃料タンク内のスクリュー搬送部に異物が詰まっていませんか。 異物がない場合はお買い求めの販売店または当社の お客様相談窓口 にご連絡ください。
4	強風のため逆圧安全装置が作動しました。	風がおさまってから再運転してください。
5	対震自動消火装置作動 （地震または強い振動衝撃を受けました）	ストーブ本体や給排気筒接続部に外れや異常がないことを確認したのち、再運転をおこなってください。
6	途中消火	• 燃料タンクに燃料（木質ペレット）があるか確認してください。タンク内の燃料は吸込口を中心に消費されますので定期的にタンク内をならしてください。 • 燃焼バーナーに灰やクリンカ（燃えかす）が多量に堆積していないか確認してください。 • 燃料タンクの底にペレットくずや粉が溜まっていませんか。 • 排気経路が詰まっていませんか。 上記内容を処置しても再度エラー表示が出る場合はお買い求めの販売店または当社 お客様相談窓口 へご連絡ください。
7	点火不良	
8	排気ファン回転異常	• お買い求めの販売店または当社 お客様相談窓口 へご連絡ください。
	周波数異常	• 電源を確認してください。
C	室内空気監視装置作動または断線	• 部屋の換気をした後、ストーブ本体が充分に冷えてから、機器の損傷、給排気筒のはずれなどの異常のないことを確認し、再点火してください。 処置をおこなった後も繰り返し作動するときはお買い求めの販売店または当社 お客様相談窓口 へご連絡ください。
F	停電復帰	再運転をおこなってください。

故障かなと思ったときに

原因 ＼ 現象	運転ランプが点灯しない	点火しない	炎が立ち上がらない	炎が大きくならない	黄火で燃える	使用中立消えする	処置方法
電源プラグをコンセントに差し込んでない	○						電源プラグをコンセントに差し込む
停電した	○ F 点滅						停電復帰後再点火操作をする
対震自動消火装置作動						○ 5 点滅	停電復帰後再点火操作をする
逆圧安全装置が作動した						○ 4 点滅	風がおさまってから再運転してください
燃料タンクに燃料がない		○	○			○ 7 点滅 6 点滅	燃料タンク内に燃料を投入する
燃料タンク内に粉がたまっている		○	○			○ 7 点滅 6 点滅	掃除等により、燃料タンク底に溜まった粉を除去する
ストーブ内の温度が高い						○ 0 点滅	本体の周囲の障害物を取り除いてください 本体の温度が下がってから再点火してください 販売店にご相談ください
灰トレイ、燃焼窓、燃料タンク扉に外れやすき間がある					○		確実に閉める
給排気筒トップ先端がふさがっている		○			○		遮へい物を取り除く
推奨外燃料を使った		○	○	○	○	○ 7 点滅 6 点滅	推奨燃料に入れかえる
燃焼室内、燃料バーナー内に燃焼殻や灰が溜まっている		○	○		○		掃除して灰などを除去する

●表中のFおよび数字は、エラー番号を示しています。
●処置されてもなおらない場合は、使用を中止し、お買い求めの販売店または当社の お客様相談窓口 にご相談ください。

10 部品交換のしかた

部品交換のときの注意

●部品交換や修理をお受けになる場合は、販売店もしくは当社で修理されることを推奨します。
●不完全な修理は危険です。
●故障したものは使わないでください。

●短時間に消耗する部品は特にありませんが、交換部品が必要な場合は、お買い求めになった販売店にご相談ください。
●部品は必ず純正部品をご使用ください。
●部品を交換するときは、ストーブを消火し、ストーブが充分冷えてから、電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。

11 保管のしかた（長期間使用しない場合）

●ストーブを保管する場合は、「7 **点検・手入れ**」の項を参照して、ストーブの手入れをしてから保管してください。
●いたんでいる箇所は、必ず修理をしてから保管してください。

1 ストーブを消火し、ストーブが充分冷えてから、電源プラグをコンセントから抜く。

2 燃焼バーナー内、燃焼室内、灰トレイ内、電源プラグに付着した灰、ほこりや汚れを固くしぼった濡れ雑巾などで取り除く。

3 器具の表面をよくふいて、汚れを取る。

●固くしぼった濡れ雑巾や、薄めた中性洗剤液で汚れを取り、乾いた布で水気をふき取ってください。（シンナー、ベンジン等ではふかないでください。）

4 ストーブは据付けたまま保管する。

●取り外して保管するときは必ず販売店もしくは当社に依頼し、湿気の少ない所に保管してください。
★取扱説明書を必ず保管してください。

12 廃棄するとき

ストーブを廃棄処分するときは、必ず燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
燃料が入ったまま廃棄するとリサイクルの際思わぬ事故が発生するおそれがあります。

●燃料タンク内の燃料の抜きかたは下を参照してください。

燃料タンク内の燃料の抜きかた

大量に残っている場合は、**燃料タンクから抜き取ってください。特に燃料タンク底に木粉が溜まっている場合は掃除機等で必ず除去してください。**少量の場合は、運転させて燃やしきってください。

13 仕　様

名称		ペレットストーブ	
型式の呼び		PE－8	
区分		密閉式ペレットストーブ	
種類	燃焼方式	直接送風燃焼式	
	給排気方式	強制給排気形	
	用途別方式	強制対流形	
使用燃料		木質ペレット※1	
点火方式		電気点火（温風点火式）	
発熱量※2	最大	7.50kW（6,450kcal/h）	
	最小	4.11kW（3,540kcal/h）	
熱効率		68%	
暖房出力※2	最大	5.1kW（4,390kcal/h）	
	最小	2.8kW（2,400kcal/h）	
燃料消費量※2	最大	1.46kg/h	
	最小	0.8kg/h	
外形寸法（本体寸法）	高さ	813mm	
	幅	492mm	
	奥行	461mm	
質量		69kg	
燃料タンク容量		13kg	
電源電圧		AC100V	
定格消費電力（50Hz/60Hz）	点火時	285W ／ 294W	
	点火時最大	680W ／ 680W（点火初期に短時間発生）	
	燃焼時	49W ／ 49W（送風ファン強時）	
給排気筒の型式の呼び		FFP－PL（別売）	
給排気筒壁貫通部孔径		FFP-PL200,FFP-PL300 φ150	FFP-PL400 φ170
給排気筒の呼び径		φ120×φ80	
安全装置		停電安全装置、点火安全装置、燃焼制御装置、過熱防止装置、	
		対震自動消火装置、逆圧安全装置、室内空気監視装置	
附属品		給排気アダプタ、試運転用燃料（1kg）	

※1　使用燃料はストーブ側面に記載されている燃料をご使用ください。
（推奨燃料は**ホワイトペレット**です。）
それ以外の燃料でのご使用は**燃焼不良を起こしたり、途中失火したり、エラーで止まることがあります。当社、および販売店にご相談ください。**

※2　燃料の状態により発熱量・暖房出力・燃料消費量が異なることがあります。

14 アフターサービス

保証について

★保証期間はお買い求めの日より１年間です。

修理を依頼するとき

●**9故障・異常の見分けかたと処置のしかた**に従って、お調べください。直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い求めの販売店、もしくは当社にご連絡ください。
●ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
① 品名…密閉式ペレットストーブ
② 名称…PE－8
③ お買い求め年月日
④ 故障の状況(できるだけ具体的に)
⑤ おなまえ・おところ・電話番号
●裏表紙の保証書の規定にしたがって、販売店、または当社が修理させていただきます。
●保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
●修理料金は、技術料、部品代、出張料などで構成されています。

この取扱説明書とストーブに表示されている禁止事項・注意事項および通常使用に反して使用された場合の故障、事故につきましては、保証いたしません。

補修用性能部品について

★ストーブの補修用性能部品の保有期間は製造打切り後７年です。
●補修用性能部品とは、ストーブの機能を維持するために必要な部品です。

転居される場合

★高地(標高1000mから1500m)への転居、高地(標高1000mから1500m)からの転居は再調整が必要ですので販売店、または当社の お客様相談窓口 までご相談ください。

故障･破損したら使用しないでください。
不完全な修理や改造は、危険です。

修理、引越しなどでストーブを運搬される時は、燃料タンク内の燃料を抜いてください。

故障・修理の際の連絡先

アフターサービスについてわからない場合は、お買い求めの販売店、または下記 お客様相談窓口 までお問い合わせください。

製造元 株式会社 トヨトミ お客様相談窓口

フリーコール **0120-938-178**

■受付時間：平日(月曜～金曜)：午前9時～午後5時(土・日・祝日は除く)

据付け・移設について

●ストーブを設置する場所には、建築基準法や電気設備に関する技術基準、消防法に基づく火災予防条例に定められた設置をする必要があります。
●施工上の責任は当社では負いかねます。

■据付け・移設工事は必ず当社指定店に依頼してください。

据付けや移設工事は据付業者に依頼し、お客様ご自身ではおこなわないでください。

TOYOTOMI

株式会社 トヨトミ ペレットストーブ 保証書

型 式 PE−8　　保証期間 本体１年間

※お買求め日　　年　月　日

※お 客 様

ご芳名　　様

〒□□□-□□□□

ご住所

〔電 話 （ ） 〕

※印欄に記入がない、あるいは購入・支払いを証明するものがない場合は有料修理となりますから必ず確認して、**購入証明書（領収書）を保管してください。**

本保証書は、本書記載内容により無料修理をおこなうことをお約束するものです。
お買い求めの日から左記期間内に故障が発生した場合は、本書をご提示のうえ、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

※販売店名・住所・電話番号

株式会社 トヨトミ　名古屋市瑞穂区桃園町5番17号 〒467-0855 ☎052-822-1144

【 無 料 修 理 規 定 】

1．取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障した場合には、お買求めの販売店または当社が無料修理致します。
2．取扱説明書に記入してある販売店に修理を依頼できない場合は、当社までお問い合わせください。
3．保証期間内でも、次の場合は有料になります。
（イ）取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意事項に従わない誤った使用、及び不当な修理や改造による故障や損傷。
（ロ）お買い求め後の、器具の転倒、落下、衝撃・輸送等による故障や損傷。
（ハ）火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、異常電圧、公害その他環境要因による故障や損傷。
（ニ）推奨外の燃料の使用による故障や損傷。
（ホ）部品の消耗による故障や損傷、部品交換及びメンテナンスの費用。
4．本書は日本国内においてのみ有効です。
5．本書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

●この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い求めの販売店または、当社までお問い合わせください。
●保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは、取扱説明書の「アフターサービス」の項をご覧ください。
●お客様の個人情報は、当社規定により、厳格に管理します。保証期間内のサービス活動、及びその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。

修理メモ

販売元　豊臣工業株式会社

製造元　株式会社 トヨトミ
本 社 〒467-0855
名古屋市瑞穂区桃園町５番１７号
フリーコール 0120-938-178
TEL 〈052〉822-1144
FAX 〈052〉822-2742